

U23 アジア選手権大会(2017) 審判活動報告

報告者 FJE 審判委員会 佐藤秀明

第6回U23アジア選手権が2017年10月26日～10月31日の期間、ベトナム／ハノイ市において開催され、帯同審判として参加しましたので活動について報告いたします。

1. 会場、日程及び実施種目

会場：My Dinh Indoor games Gymnasium

日程及び実施種目：10月25日 審判会議

10月26日 個人：MS、WF

10月27日 個人：ME、WS

10月28日 個人：MF、WE

10月29日 団体：MS、WF

10月30日 団体：ME、WS

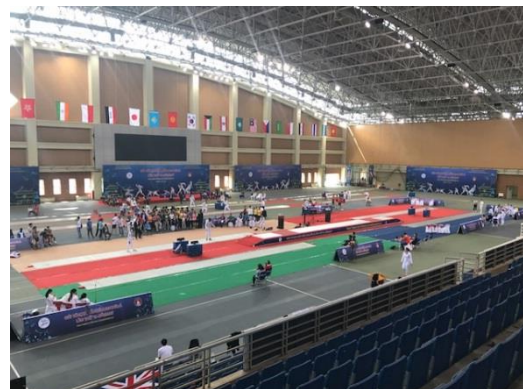
10月31日 団体：MF、WE



会場（正面入口）



会場（決勝ピスト）



会場（全体）

2. 審判活動

10月25日 審判会議

試合会場に移動し、現地時間 PM 6 : 00 時から会議が行われた。審判委員長から簡単な挨拶とDTを担当されるマリア氏（フィリピン）の紹介があった後、審判員の種目確認、スケジュールの確認、武器検査マークの確認、違反と罰則の確認が行われた。

10月26日 個人：男子サーブル、女子フルーレ

男子サーブルの予選プール及びトーナメント2回戦（T64→T16）までを担当した。6名プールだったため、DTから1人で担当するように指示があった。武器及び用具の検査を済

ませ、マッチの審判を行った。各マッチ開始時及び終了時のサリュウの指示など、十分にマッチを指揮することが出来ていない点や、判定についても微妙なフレーズを見逃すことも多々あり、振り返ると反省する点が多かった。また、自国選手のマッチは審判できないため、隣のピスト担当の審判とその都度交代する必要がある不測の事態でも十分に心の準備をできなければならない点も反省しなければならない。トーナメントについては、ミスジャッチを発端としてその後の両選手のコーチからのプレッシャーや罵声などにより動揺する場面が多くあり、苦い経験を積ませてもらった。

10月27日 個人：男子エペ、女子サーブル

男子エペ及び女子サーブルの予選プールとトーナメント2回戦（T64→T16）までを担当した。2種目同時に進行し、男子エペの予選プール途中で女子サーブルのトーナメントの審判を担当するという貴重な経験があった。異なる種目を審判することが、非常に難しいことを初めて体験することができた。女子サーブルでは、前日と同様にアタックとプレパレイション、アレの判定に非常に苦勞した。

10月28日 個人：男子フルーレ、女子エペ

女子エペの予選プール及びトーナメント3回戦（T64→T8）と決勝の審判を行った。判定において、交差後の有効な突き、有効面以外への突きなど多くあったが、悩んだ場面はなくスムーズに行うことができた。決勝戦では、韓国選手同士のマッチで大きなプレッシャーもなく審判を行えた。

10月29日 団体：男子サーブル、女子フルーレ

男子サーブルを2回戦まで担当した。1回戦は韓国のChoi氏、2回戦はベトナムのクウォン氏と審判に入った。当たり前のことかも知れないが、正確でブレない判定を間近で見ることができ大変勉強になった。

10月30日 団体：男子エペ、女子サーブル

男子エペを2回戦までと女子サーブル2回戦を担当した。男子エペの1回戦はインドネシアのインドリ氏、2回戦はニュージーランドのニコラ氏と審判に入った。女子サーブルの1回戦はUAEのアリ氏、2回戦はカザフスタンのディアコキン氏と入った。どの審判員も国際大会を経験しており、試合の指揮や判定など多くの学びがあった。

10月31日 団体：男子フルーレ、女子エペ

女子エペを2回戦までと決勝を担当した。1～2回戦はマレーシアのエバ氏、決勝はニュージーランドのニコラ氏と審判に入った。2回戦に担当した香港と地元ベトナムの試合は、有効面以外の突きやピストに出た後の突きなどが多く、判定に苦勞した。また、違反と罰則

を多く付与したことで、中盤まで大量リードしていた若い選手中心のベトナムチームが動揺し逆転負けを喫した試合であった。判定を公平に行うことは試合の秩序を維持するうえでも重要なことであるが、選手のパフォーマンスにとっても大きく影響することを非常に感じた記憶に残る試合であった。

以上、私の主観的な感想に終始してしまっただが、審判員としての心構えや判定の視点など実践を通じて学ぶ機会は大変貴重であった。

3. まとめ

初めての国際大会、チャンピオンシップということもありかなりの緊張と不安を抱えての参加であった。2月に行われたアジアジュニアアカデ選手権においては、試験受験者という立場で他国の諸先輩審判員を遠目で眺めるだけであったが、いざ同じ舞台で審判をする中で、気軽に声をかけてくれたり、不明点や疑問点を質問してもディスカッションしてくれるなど、とてもよい雰囲気の中で審判活動ができた。幸いにも、本大会の審判委員長には甲斐氏が招聘され、甲斐氏を通じて審判団の輪に入ることができ、また、駆け出しの私を決勝の舞台で審判に指名していただき大変感謝している。

審判員として、別の角度からの学びにコーチの試合に臨む姿勢がある。日本代表チームのコーチ陣は、試合会場では選手ファーストであり、ホテルでは寝る間を惜しんで分析や報告書の作成をしていた。コーチ陣の試合に向けた姿勢をみていて、その情熱に審判員として応えるためにも、中途半端な気持ちで試合に臨んではいけないことを感じた。

全体を通して、審判員としてルール熟知や判定の正確性は必要であるが、それらを支える気力と体力、加えて多くの情報を得るためのコミュニケーション力（スキル）が必要不可欠であることを肌で感じた。これから国際審判員を目指す若い方々に向けては、今回の経験を伝えていく責任を強く感じた。

以上、私の主観的な感想に終始してしまっただが、審判員としての心構えや判定の視点など実践を通じて学ぶ機会は大変貴重であった。

最後に、U23 アジア選手権の審判員派遣に尽力していただいた、FJE 審判委員会の皆様と渡航手配をしていただいた NF スタッフに感謝いたします。



審判員集合写真



男子サーブル決勝選手紹介

※副審ですが...